

<研究ノート>

フランス中世の「ファルス」研究： 『洗濯桶のファルス』翻訳と注釈

川那部 和恵

Study on the French Medieval "Farce":
Translation and Annotations of *La Farce du Cuvier*

Kazue KAWANABE

テキスト 現存するテキストは二種類。一つはブリティッシュ・ミュージアム撰集（1545年頃リヨンで刊行、略称B.M.版）に¹⁾、一つはコペンハーゲン撰集（1619年リヨンで刊行）中に収められている²⁾。前者はオリジナルのコピーの一つを、後者はその異本を翻刻したもの。今回の訳出にあたっては底本としてB.M.版を使用、また必要に応じ、コペンハーゲン版ならびにアンドレ・ティシエによるB.M.版の校訂本を参照した³⁾。B.M.版における原題は以下のとおり：Farce nouvelle tresbonne et fort joyeuse du Cuvier a troys personnaiges. Cestassavoir Jaquinot. Sa femme. Et la mere de sa femme. オリジナルの制作年・制作場所については今のところ特定不可能。ただ、作品の内容や言葉使いから、おおよそ15世紀末ピカルディ地方の作品であろうと推定されている。作者についても、ハンキスはバゾシアン説を打ちだしたが⁴⁾、これを否定する学者も多く、結局は未だ不詳の状態である。

あらすじ 現存ファルスの中で最多の

頻度を誇る題材は夫婦ものである。大きく見てそれらは、夫婦の何れかが浮気をする不倫ものと、夫婦間の力関係をめぐる権力争いものとに分けられる。『洗濯桶のファルス』は後者グループの代表作。結婚一年目の夫婦を中心とし、これに、同居していると考えられる妻の母を交えて事件は展開する。ジャキノは結婚このかた、母と組んだ妻による暴力的支配に忍従し続けてきたが、ついにこの屈辱に耐えかね、ある日、権力奪還の決意を固める。そんな折、義母の提言で、彼のなすべき家事項目のリストを作ることになる。二人が口述し、彼が書き取る。おびたしい項目を書き終えた彼は、署名の後、ここに書いてある以外のことはしないと宣言、受諾される。その直後である。妻が洗濯中の桶の中に転落した。彼女は必死で助けを求めるが、非情にもジャキノは「それはリストに書いてない」を繰り返すばかり。様子を見に来た義母に懇願され最終的には救出するが、それは、以後の自分の家内における支配権を妻に認めさせてからであった。

主テーマ 作品の背景には伝統的な男性支配社会の構図がある。女性はイヴ以来、無節操な存在、男性に劣る存在とみなされ、法的にも不動産の相続権や王位継承権を認められず、精神的社会的な差別を受けていた。当時の諺もうたっている。「女は信仰も法も、恐れももたない、節操のない不完全な動物である」。ジャキノの妻は、こうした女性観をむしろ利用し演ずることによって、従来の枠組みの破壊を企てたのである。しかし一方ジャキノの側には、男として父権を維持せねばならないという社会的義務があった。当時、女房ひとり操縦できないような男はあるまじきとして、社会的制裁的とすらされた。シャリバリという共同体内の公開懲罰儀礼において、ロバの背に後ろ向きに乗せられて町内を引き回された男たちの中に、妻に殴られた亭主も少なからずいたという証言は、関連の資料中にいくらかでも見出せる。従って作品冒頭のジャキノの決意は、男の意地などという単なるロマンではなくて、社会的重圧に起因する悲願なのである。無事にこの使命を果たし得たという安堵感は、終結部の彼の台詞、「あっしに批判的だった男どもも今じゃ好意的だよ」(329行)によく表れていよう。『洗濯桶』は妻の造反を退治した夫の勝利で終わっており、筋立て上、保守的な意図に基づく作品ということができる。しかし看過できない異質な要素も残る。母が最後にたどり着く考えである。夫婦二人が互いの主従関係を確認しあっている時、彼女の関心はもはやそこにはない。彼女が望むのは、どちらが主であれ従であれ、要は夫婦の円満であり、結婚生活の豊穡である。母性ならではの地に足のついたこの老女の姿勢は、支配関係に執着し続ける若夫婦の不安定な生の形式、そして背後に控える闘争的な男性支配の伝統的な人工社会の構図に対して、なにか警鐘を鳴らしているように思えてならない。

源泉 ファルスにはフランスやイタリ

アの小話に材をとった作品が多い。『洗濯桶』もその一つで、エミール・ピコによると、まさしく源泉と思しきファブリオーがあった模様だが、そのテキストは今日に残らなかったという。しかし現存作品の中にも、部分的にはあるが、よく似た話を見つけることができる。例えば『エンさん』というファブリオー：《怒りっぽい妻のアニユーズが桶の中に真つ逆様に落ちた。前夜雨が降ったので、桶には水が溢れていた。彼女は夫のエンに、助けてくれるなら、以後文句を言わずに夫に隷従すると約束する》。あるいは『妻を追い出した貴族』のファブリオー：《ある貴族が恋愛結婚をした。当初、彼は妻に最大限尽くし、どんなわがままもすべて聞き入れてやった。あばずれはこれにつけこんだ。夫の弱点を利用して次第に彼を支配するようになり、遂には彼を爪弾きにした。夫はこの仕打ちに一年間じっと堪える。が、その後...》⁵⁾。さらにイタリアのストラパロールの『滑稽な夜話』中にも：《パドヴァの貴族が公証人の前で、自分の従僕が果たすべき仕事内容を記した契約書を作成した。ある日主人の馬がぬかるみにはまった。召使は救出を拒否する。なぜなら「それは仕事内容として記されていないから」。そして革袋から契約書を取り出すと、隅から隅まで読んでいく》⁶⁾。

「洗濯桶」 舞台上に始めから終わりまで登場している洗濯桶は、ただ鎮座しているだけだが、作中きわめて重要な役割を担っている。まずこれは、夫婦喧嘩の争点の場となっている家事の象徴をなす。家事内容はさまざまに及ぶが、中でも洗濯は、当時においては重要な仕事だった。洗濯は月に一度くらいしか行われず、「洗濯の日」には自家のものは元より、両親や隣人のものまで全て洗った。必然的に桶は大きい。具体的な数字では18世紀のものしか手元がないが、それによると、規模は深さ6ピエ×直径5ピエ(大体2m×1.65m)もあったようである⁷⁾。洗濯に

は手順があった：1．桶の水に浸す（普通は前日に）、しかし123-124行にあるように、ひどく汚れているものは事前に川で予洗した；2．桶の中で洗う；3．川で濯ぐ。巨大な桶との格闘、重い洗濯物を抱えての桶と川の間、の往復。実に力と根気を要する重労働であった。この仕事の中、ジャキノの妻は桶中に転落した。物理的な転落は、夫との関係にお

ける彼女の地位的な下落を引き起こし、入れ代わりにジャキノの立場が上昇する。この状況転換は200行目に生じるが、ここを境に作品は、構成上見事な対照をなす前半と後半に大きく二分される。転落した者を溺死の危機に陥れる程に巨大な舞台上の洗濯桶、これは劇的ダイナミズムの契機をもなしているのである。

* * * * *

『とても面白くてとびっきり愉快な新しいファルス「洗濯桶」

登場人物は三名、すなわち、ジャキノ、その妻、および妻の母』

ジャキノが話し始める。

まったく、悪魔のせいさね
あっしが所帯を持ちまっただのも。
来る日も来る日も嵐と雷、
ほんに苦しいやら悲しいやら。
かかあはひっきりなしに駆けずり回ってるぜ
まるで踊り子さ。その上ばあが
こいつがまた、いっつもしゃしゃりできてやがる。
こちとら休む間も、息つく暇もねえってわけよ。
引きずり回され、痛めつけられ
でっけえ石が脳天めがけて飛んできくるわ。 10
こっちがギャーギャー、あっちがブツブツ、
こっちがバカ・マヌケを連発、あっちがガミガミガミガミ。
平日も休日もないね、
あっしは気晴らししてもんを知らねえのよ。
そう、あっしはさ、結婚に幻滅した亭主族の一人なの、
何しろいいことなんてまるでなし。

妻 こらっ、何をぐたくたぬかしてんだい！ 20

お黙り。ほら、真面目にやるんだよ。

母 どうしたい？

妻 えっ！ どうしたもこうしたもないよ。

やることはいつだって山とあるのにさ、
このひとケロツと忘れてんだよ

- 家の中の仕事をさ。
- 母 うん、おまえさんに弁解の余地はないね
文句だって言えないよ。マリアさまにかけて、
夫たるものは妻に従わねばならん。
それがあんた良い亭主というものよ。
時どき殴られるのはさ、
みんなあんたが悪いから。 30
- ジャキノ ムムツ、だけどよ
こんな苦しい思いなんてまっぴらだぜ。
- 母 まっぴら？ どうしてだい？ 聖母マリアにかけて、
言っとくがね、この娘が折にふれそこかしこで
あんたを罰したり懲らしめたりするのが、
意地悪からだっていうのかい？ いいや、違う、
好いてればこそなんだよ。
- ジャキノ こりゃまたお見事な弁舌で、ジャケット義母さん。
といっても、そんなもって回った言い方じゃあ
何のこったかちっとも分かりませんがね。 40
一体どういう意味なんです？ 説明して下さい。
- 母 それはさ、こういうことだ
つまりさ、こんなこたあ結婚一年目では何でもないってことさ。
どうだ分かったかい、親愛なるジャン君？⁸⁾
- ジャキノ ジャンだって！ 有徳のポール聖人にかけて、何てえことを？
義母さんはあっしを馬鹿殿あつかいにした、⁹⁾
おかげであっしは早くもジャンになっちまった。
あっしの名はジャキノです、これが本名ですよ、
知らなかったんですか？
- 母 もちろん知ってるさ！
それでもあんたはジャン、所帯持ちのジャンなのさ。 50
- ジャキノ 何てこった、こりゃあますます傷つくなあ。
- 母 それにしてもだよ、親愛なるジャキノ君、
あんたは大事にされてるよね¹⁰⁾。
- ジャキノ 大事にされてるだって！ ああ有徳の聖人ジョルジュさま！
首をちょん切られる方がずっとましだぜ。
大事にされてるだって！ ああ聖母さま！
- 妻 妻には服従すること。
そういうことさ、命令されたらばね。
- ジャキノ ケッ！ 聖ジャンさま！ こいつの要望ってのが
これがまた目茶目茶おいんだよな。 60
- 母 用事を忘れんようにするには、
巻紙をつくつといたらどうだね、¹¹⁾

- 命令されたことを紙に
 ぜんぶ書き留めとくのさ。
- ジャキノ 異存ありませんよ、
 では、さっそく書いていきます。
- 妻 じゃあ書いておくれ、読めるようにね。
 まずこうさ、あんたはあたしに従います、
 決して拒みません
 あたしがやって欲しいことを。 70
- ジャキノ なんだって、御聖体にかけて、絶対に書かんからな。
 納得のいかんことは。
- 妻 さあ、ブツブツ言っただけで書きな、
 あたしを疲れさせんじやないよ、
 いいかい、あんたは毎朝まっさきに起きて
 用事をこなさなければならぬ。
- ジャキノ ブーローニユの聖母にかけて、
 そんなばかな。
 真先に起きるだつて！ いったい何のために？
- 妻 あたしの肌着を暖炉で暖めるのさ。 80
- ジャキノ まさかこれがしきたりだつて言うんじゃあるまいな？
- 妻 そうさ、しきたりさ、おまけに流儀だよ。
 よーく覚えておくんだよ。
- 母 お書き。
- 妻 ジャキノ、書くんだ。
- ジャキノ まだ最初のとこ書いてんだぜ、
 そんなに急かすなよ。
- 母 もし夜中に、子供が目を覚ましたら、
 ふつうどこの家でもそうするように、
 あんたが面倒をみななければならない
 起きて子供をあやし、 90
 だっこし、散歩させ、服の乱れを整えてやる、
 寝室の中で、たとえ真夜中であっても！
- ジャキノ 夜のお楽しみもないってことか、
 どうもそんなとこらしいな。
- 妻 お書き。
- ジャキノ それがさあ、実をいうとね、
 もう紙の下まで書きちまってね。
 それでも書けてえのかい？
- 妻 書くのさ！ それとも痛い目にあいたいかい！
- ジャキノ じゃあ裏にでも書くとするか。
- 母 いいかいジャキノ、それからおまえは 100

- 粉をこねてかまどに入れ、そして洗濯をするんだ。
- 妻 粉を篩いにかけて、洗い物をして、垢落としをする。
- 母 行ったり、来たり、急いで、駆けて、
リュシファーのようにさ。
- 妻 パンを作る、かまどを暖める。
- 母 水車小屋で粉を挽く。
- 妻 朝は起きたらすぐベッドをつくる、
さぼったら体罰だ。
- 母 そしてそれから鍋を火にかけ
それが済んだら台所の掃除。 110
- ジャキノ あのね、全部書いて欲しけりゃ、
一つずつ言ってくれよ。
- 母 ああそうか、じゃあ書くんだよ、ジャキノ、
粉をこねる。
- 妻 かまどに入れる。
- ジャキノ 洗濯をする。
- 妻 粉を篩いにかける。
- 母 洗い物をする。
- 妻 [垢落としをする。]
- ジャキノ 洗うものは？
- 母 壺と皿。
- ジャキノ ちょっと待った、慌てないで下さいよ、
だから、ツ・ボ、サ・ラ。
- 妻 それと、どんぶりも。
- ジャキノ ソ・レ・ト、やれやれ、何しろ脳たりんだもんな、
全部書き取れなんて無理だよ。 120
- 妻 お書き、忘れないですむんだから。
いいね？とにかくあたしの命令だよ。
- ジャキノ 分かったよ。ア・ラ・ウ...
- 妻 川に行つて
糞にまみれた子供のおむつを。
- ジャキノ ウェーッ、やだぜ！その物も
言葉も、いかにも品がないぜ。
- 妻 [さあ] お書き！さあ！このバカ！
こんなもんが恥ずかしくてどうする？
- ジャキノ 御聖体にかけて、絶対にいやだ、
お前の方が嘘つきってことになるぞ、こっちはこうして誓つてんだから。 130
- 妻 罵倒されてもいいのかい？
石膏よりもっとこっぴみじんにぶちのめしてくれるよ。
- ジャキノ クソー！これじゃ話しにもならん。

- 妻 わかった、書くよ、だからもうやめてくれ。
それと最後にもう一言、
家事はきちんとやること。
で、これから洗濯桶のところで
洗濯物を絞るから手伝っておくれ、
ハイタカのようにテキパキとだよ。
[書いときな。]
- ジャキノ ようし、できた！ 140
- 母 それからほら、アレもしなくちゃならん
時々は人目を忍んでさ。
- ジャキノ キツイのを一発かましてやるさ
半月か月に一回でいいだろ？
- 妻 足りないよ、毎日五・六回、
あたしとしては少なくともこれぐらいは望みたいね。
- ジャキノ なんてえこった、イエス・キリストさま！
五・六回もだってさ！有徳の聖ジョルジュさま！
五・六回もだってさ！二回や三回でないんだぜ、
聖なる御身体にかけて、なんてえこった。 150
- 妻 神様、どうかこの田舎もんに悪い喜びをお与え下さいまし
このへなちょこのろくでなしめは何の役にも立ちやせん。
- ジャキノ こん畜生！こんなにこっぴどくあしらわれ
あっしはほんとに愚か者よ。
きょう日こんな状況におかれて
それでも幸せだなんて男、いっこないさね。
当然だろ？だって指示されたことを
夜昼なく覚えてなくちゃならんのだぜ。
- 母 今しがたのことも書いとくんだよ、わたしの言ったことをね。
ほら、さっさと書く、そしたらサインをして。 160
- ジャキノ はい、しましたよ、さあどうぞ！
失くさないように気をつけて下さいよ。
いいですか、たとえ絞首刑にかけられようとも、
あっしは今のこの瞬間から
この巻紙に書いてある以外のことは
一切いたしませんからね。
- 母 ああ、せいぜいそうするがいいよ。
- 妻 じゃあ、母さん、また後で。
(ジャキノに向かって話す。)
さあ、神かけて、ここを持つんだ、
ちょっとばかし汗を流しておくれよ
洗濯物をピンと張るんだからね、 170

- これもわが家の家事の一つなのさ。
- ジャキノ おまえのしたいってことがあっしには分らんね。
それにしてもやつは一体何をやらせようってんだ？
- 妻 ちょいと、でっかいピンタ食らわすぞ！
布を持ち上げなっただよ、このアホンダラが！
- ジャキノ それはあっしの巻紙には書いてない。
- 妻 いや、書いてあるさ。ぜったい。
- ジャキノ 聖人ジャンにかけて、ないね。
- 妻 ないだっけ？あるだろ、そうだろう？（そして平手打ち）
これでも食らえ、ヒリヒリするがいい！ 180
- ジャキノ や、やめてくれ、持つからさ、
そうだ、おまえが正しい、おまえの言うとおりだ。
あとでまた考えてみよう。
- 妻 ほら、その端っこを持って、強く引っばって！¹²⁾
- ジャキノ 神の血にかけて、ずいぶんとキッタネーきれだな！
糞の臭いがブンブンすらあ。
- 妻 何だっけ、あんたこそ糞食らえだ！
あたしみたいにちゃんとやるんだよ。
- ジャキノ ウオーっ、ここに糞が。
なんちゅう情けねえ仕事なんだ！ 190
- 妻 アンタ、顔中めった打ちにされたいんかい、
冗談で言ってんじゃないよ。
- ジャキノ やめてくれ、な、後生だから
- 妻 （布を彼の顔に投げつけて）
ほら嗅ぐんだ、阿呆の隊長さんよ。
- ジャキノ 聖母さま、こりゃあ悪魔の仕業だぜ！
服が糞だらけだ。
- 妻 そんなに言い抜けせにやならんのかねえ？
どうせ仕事はせにやならんのに。
そこを持って引っ張れって言ってんだろ！
疥癬にでもかかっちゃう方がいい！ 200
- 妻が洗濯桶の中に転落する。
- 妻 ワアッ、あたしを見捨てないでくれ！
同情してくれ！
ここから出しておくれよ、
じゃないと赤恥かいて死んじまうよう。
ジャキノ、あんたの女房を助けるんだ、
この桶の外に引き上げるんだ。
- ジャキノ それはあっしの巻紙には書いてない。
- 妻 樽にこんなに締めつけられて、

- あたしゃほんとに苦しいよ、
今にも心臓が潰れそう。 210
ああ、お願いだ、ここから出しておくれよ！
- ジャキノ 臺の立ったあばずれめ、
この酔っぱらい、
けつを回して、
向こうへ向けろ。
- 妻 ねえ、愛しのあんた、命を助けておくれ！
気絶しちまいそうだ。
ちょいと手を貸しておくれよ。
- ジャキノ それはあっしの巻紙には書いてない、
逆らえば地獄に落とされるんでな。 220
- 妻 ああ！助けてもらえなきゃ、
死んじまうよ。
- ジャキノが巻紙を読む。
- ジャキノ 「粉をこねる、かまどに入れる、そして洗濯をする」
「粉を篩いにかける、洗い物をする、[垢落としをする]」
- 妻 血がすっかり逆流しちまったよ、
死にそうだ。
- ジャキノ 「接吻をする、抱擁する、そして擦って磨く。」¹³⁾
- 妻 早く助けておくれよ。
- ジャキノ 「行ったり、来たり、急いで、駆けて」
- 妻 まちがいなく今日中に死んじまうよ。 230
- ジャキノ 「パンを作り、かまどを暖める」
- 妻 お願い、手を。もうだめだ。
- ジャキノ 「水車小屋で粉を挽く」
- 妻 あんたってひとは獵犬より残酷だよ。
- ジャキノ 「朝は起きたらすぐベッドをつくる」
- 妻 なんてこった、ゲームとでも思ってたのかね。
- ジャキノ 「そしてそれから鍋を火にかける」
- 妻 ああ！ジャケット母さんはどこなんだい？
- ジャキノ 「それが済んだら台所を掃除する」
- 妻 司祭さんを呼んできておくれ。 240
- ジャキノ ぜんぶ読み終えたぞ。
だけど、きっぱりと言っとくがね、
それはあっしの巻紙には書いてない。
- 妻 でも、どうして書いてないんだい？
- ジャキノ そりゃあおまえが言わなかったからさ。
自分でなんとかして切り抜けるんだな。
とにかく、あっしにすがっても無駄なことよ。

- 母 さあ、ジャキノ、早く、
あんたの女房を助けるんだから手を貸すんだ。
- ジャキノ わが魂に誓って、いやだね、
ただしだ、あらかじめ約束するってんなら話しは別だがね、
あっしにこの家の主導権を譲るって
約束するんならね。 290
- 妻 あたしをここから出してくれるってんなら、
喜んで約束するよ。
- ジャキノ 本気かね？
- 妻 家事は全部あたしがやる、
あんたには絶対に頼まないし
命令もしない、
のっぴきならない場合は別だけどね。
- ジャキノ よし、そういうことなら、助けてやるか、
しかし、ミサに集まる全聖人にかけて、
約束は守ってくれよ、
今おまえが言ったとおりだ。 300
- 妻 けっして破りません、
友よ、約束します。
(ジャキノは桶から妻を引き上げる)
- ジャキノ だからこれからはあっしが
主人ってことだ、女房も承認した。
- 母 夫婦の仲が悪けりゃ、
そこから利を得ることは出来ん。
- ジャキノ そこであっしはこう断言したい、
自分の亭主を扱き使うのは、
亭主がバカだろうと教育がなかりょうと
妻にとって恥ずべきことなんだ、とね。 310
- 妻 たしかに、今見てもらったような
あたしの行為はまずかった。
でもこれからは家事はあたしひとりで
テキパキとこなしていくよ。
あたしが召使になるのさ、
それがあたしの当然の義務なんだから。
- ジャキノ そうなったら、あっしは嬉しいね、
これで気をもまずに生きていける。
- 妻 もちろんかならず守るさ、
約束するよ、それが道理というもんだからね。 320
この家の主人にはあんたがなるのさ、
今よく考えたうえのことだよ。

ジャキノ あっしも気をつけなきゃな
おまえさんに意地悪をしないようにな。

(観客に向かって)

というわけでさ、なんていうか
あっしは狂気の沙汰から
分別を失くしちまっていた。
でも女房がこうして和解してくれたもんだから、
あっしに批判的だった男どもも今じゃ好意的だよ、
女房にしてみれば気まぐれから
あっしを支配しようなんて思ったんだな。
これが結論だ、じゃあ。

330

注

文中、()内は訳者による補加、[]内はテキストの欠落部分の補充。

- 1) *Recueil du British Museum*, Slatkine, 1970.
- 2) *Recueil de Copenhague* は、Emile Picot et Christophe Nyrop, *Nouveau Recueil de Farces Françaises des XV^e et XVI^e siècles*, Slatkine, 1968, 中に復刻されている。
- 3) André Tissier, *La Farce en France de 1450 à 1550*, CDU et SEDES réunis, 1976, pp.65-77.
- 4) basochien. 高等法院の下級職員組合(演劇活動も行った)のメンバーの名称。
- 5) *Sire Hain*, in *Fabliaux ou contes du XII^e et XIII^e siècles*, Slatkine, 1971, t.3, pp.190-196; *Prud'homme qui renvoya sa femme*, *ibid.*, pp.199-200.
- 6) Straparole, *Facétieuses Nuits*, Edition P.Jannet, t.2, pp.367-371.
- 7) A.Tissier, *ibid.*, p.57
- 8) 「ジャン Jehan」という名前は、その類縁語(例えば Jenin, Jeninot, Janot, 等)も含めて、民衆文学や滑稽文学においては伝統的にバカ、愚か者、場合によっては寝取られ亭主の意を暗示する。ここでは両方の意味を兼備。50行目に留意されたい。Cf. Halina Lewicka, *Etudes sur l' Ancienne Farce Française*, Klincksieck, Paris, p.81-82.
- 9) 「馬鹿殿」は sire の訳。sire の本義は monsieur だが、ファルスの中ではバカ、愚か者の意味を担うことが多い。
- 10) 「大事にされてる」は abonny。本義「飼い慣らされた」をもじって使っている。
- 11) 「巻紙」は rolet の訳。小さな巻物を指すとともに、目録、一覧の意味をも持つ。
- 12) 舞台上の光景はおそらく次のごとく：二人は桶を挟んで踏み台の上に立っている。このとき妻が桶の中から子どものおむつを引っ張り出した。そして、「ほら、……」
- 13) 「擦って磨く」は fourbir の直訳。ここでは台所の掃除というより、性行為の暗示。